

日本原子力学会標準

AESJ-SC-P005:2008

「原子力発電所の高経年化対策実施基準:2008」

正誤表

No.	頁	箇所	誤	正	備考
附属書 B (規定) 10年ごとの経年劣化管理の実施方法					
1	12	B.4.3 照射誘起型 応力腐食割れ	照射誘起型応力腐食割れの感受性発現しきい値を超えた場合は、 附属書 C.3.3.2 に準じて評価を行う。	照射誘起型応力腐食割れの感受性発現しきい値を超えた場合は、 附属書 C.3.3.2～C.3.3.4 に準じて評価を行う。	
附属書 C (規定) 経年劣化事象に対する技術評価の実施方法					
1	28	図 C.7.1 ケーブルの健全性評価プロセス	電気学会推奨案に基づく型試験結果によりケーブル健全性を評価する。	電気学会推奨案に基づく環境認定試験結果によってケーブル健全性を評価する。	別紙参照
2	36	C.8.2.9 二次評価	C.8.2.9 二次評価	C.8.2.10 二次評価	
3	37	C.8.2.10 二次評価以降の健全性評価	C.8.2.10 二次評価以降の健全性評価	C.8.2.11 二次評価以降の健全性評価	

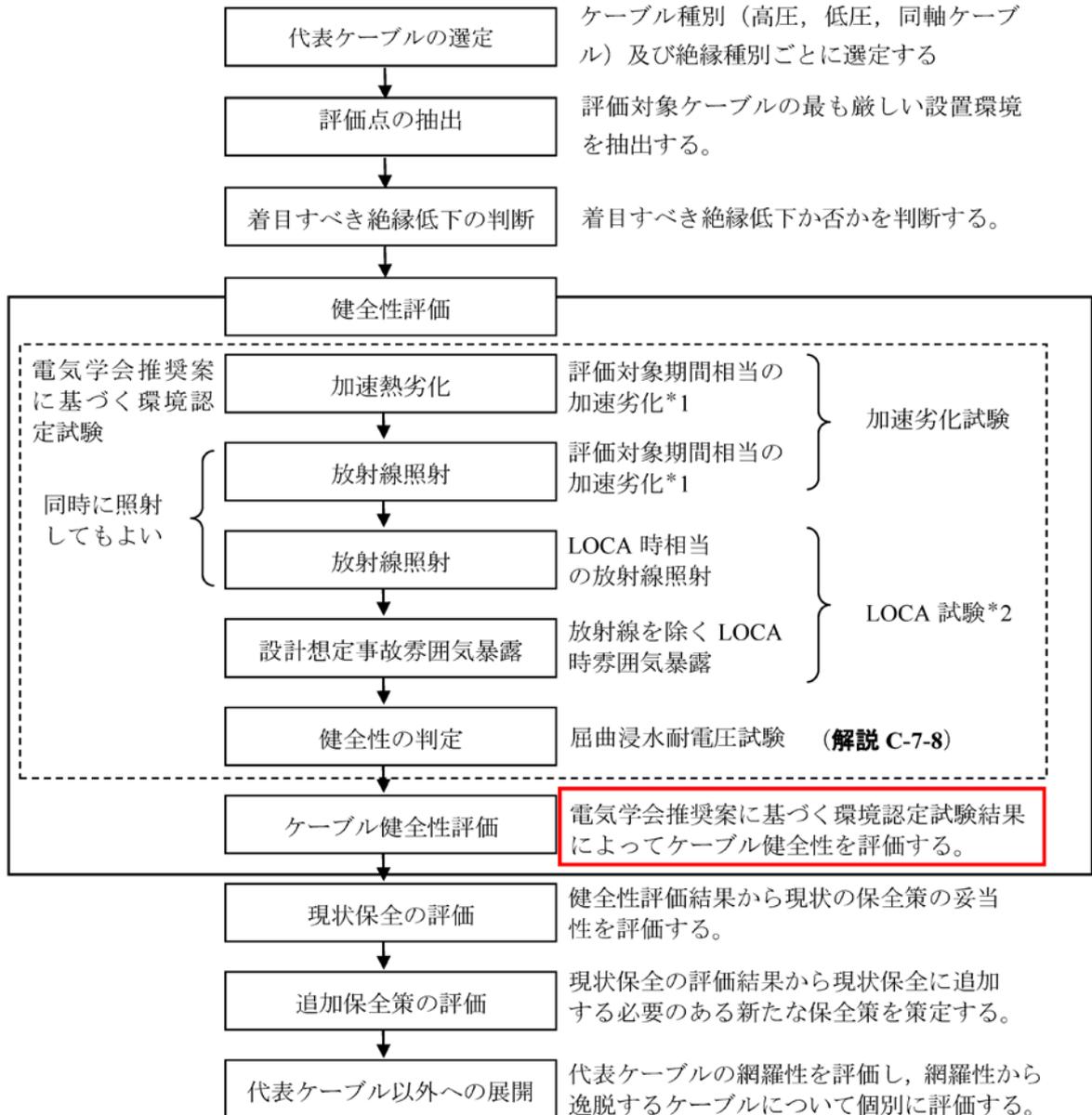


図 C.7.1—ケーブルの健全性評価プロセス

[出典：高経年化技術評価審査マニュアル 電気計装設備の絶縁低下（含む電気計装設備の特性低下）

JNES-SS-0511-01（平成 18 年 10 月 2 日）（独）原子力安全基盤機構]

*1：実機で使用されていたケーブルを供試ケーブルとする場合，実機で使用されていた期間を評価対象期間から差し引いて評価する。

なお，プラント供用期間中の想定使用条件は，当該ケーブルが布設されている最も厳しい条件（評価点）を包含した内容とする。

*2：設計想定事故時の雰囲気暴露下で機能要求される電気・計装設備のみに要求されるプロセスである。

日本原子力学会標準

AESJ-SC-P005:2012(Amd.3)

「原子力発電所の高経年化対策実施基準:2012（追補 3）」

正誤表

No.	頁	箇所	誤	正	備考
附属書 A 添付資料-4（別冊） 経年劣化メカニズムまとめ表-PWR					
1	737	P06-76 No.13	（記載なし）	（シリンダの摩耗を追加）	別紙 1 参照
2	737	P06-76 No.14	（記載なし）	（ヨークの腐食（全面腐食）を追加）	別紙 1 参照
3	803	P09-31 No.10	（記載なし）	（鉄心の腐食（全面腐食）を追加）	別紙 2 参照

経年劣化メカニズムまとめ表-PWR

P06-76 弁（空気作動弁用シリンダ型空気作動装置／屋外／－／－）

(1/1)

No.	機能達成に必要な項目	部位	材料	経年劣化事象	
1	弁棒作動機能の確保	シリンダ	炭素鋼＋内面クロムメッキ	腐食（全面腐食）	
13				摩耗	
2		シリンダボルト	炭素鋼＋クロムメッキ	腐食（全面腐食）	
3		シリンダカバー	鋳鉄	腐食（全面腐食）	
4		ピストン	鋳鉄	摩耗	
5		Oリング	－	（消耗品・定期取替品）	
6		ばね	ピアノ線	変形（応力緩和）	
7		ピストンロッド	ステンレス鋼＋クロムメッキ	（想定されず）	
8		電磁弁	－	（消耗品・定期取替品）	
9		フィルタ付減圧弁	－	（消耗品・定期取替品）	
10		銅管及び継手	銅合金	疲労割れ	
11		リミットスイッチ	純銀＋金メッキ樹脂	導通不良	
14			ヨーク	鋳鉄	腐食（全面腐食）
12		機器の支持	取付ボルト	炭素鋼	外面からの腐食（全面腐食）

経年劣化メカニズムまとめ表-PWR

P09-31 電気設備（動力変圧器／乾式変圧器自冷式／－／屋内）

(1/1)

No.	機能達成に必要な項目	部位	材料	経年劣化事象
1	磁気回路の維持 通電・絶縁機能の維持	巻線構成 品 コイル	銅線, 絶縁物	絶縁低下
2		巻線構成 品 垂直ダクト	ポリエステルガ ラ ス	絶縁低下
3		鉄心構成 品 鉄心	珪素鋼板	ゆるみ
10				腐食 (全面腐食)
4		配線構成 品 接続銅板	銅	腐食
5		支持組立 品, 配線構 成 品 銅板支持 碍子	磁器	絶縁低下
6		鉄心構成 品 鉄心締付 ボルト	炭素鋼	腐食
7	機器の支持	支持組立 品 取付ボルト	炭素鋼	腐食
8		支持組立 品 基礎ボルト	炭素鋼	腐食 (全面腐食)